

大阪大学創立80周年にあたって

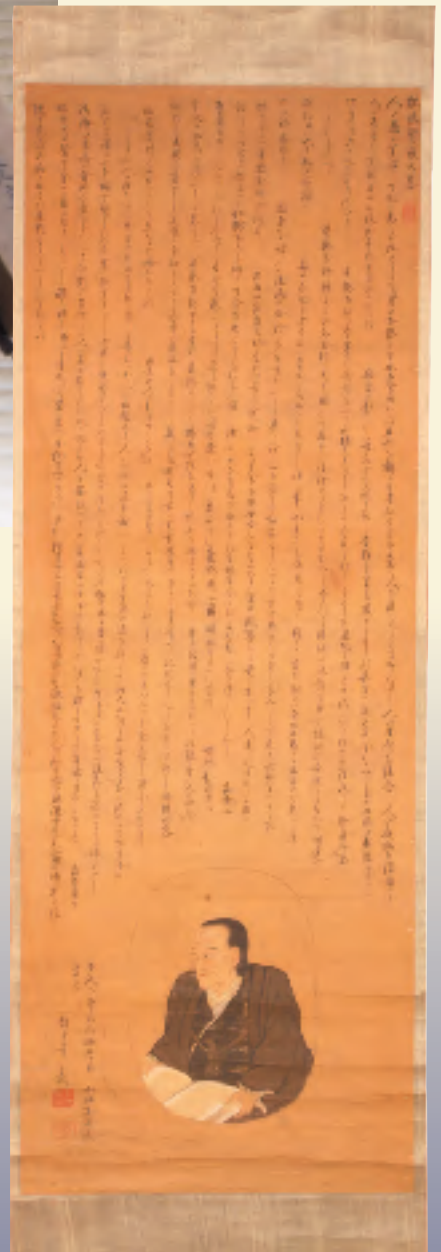
継承する適塾の精神



緒方洪庵



緒方洪庵の手紙



扶氏医戒大略ならびに洪庵像



適塾記念会誌『適塾』



扶氏経験遺訓



適塾

◎場所

適塾 (史跡・重要文化財)

(大阪府中央区北浜3丁目3番8号 電話06-6231-1970)

◎期間

平成23年5月31日(火)～6月12日(日)

午前10時～午後4時(月曜日休館)

◎入場料

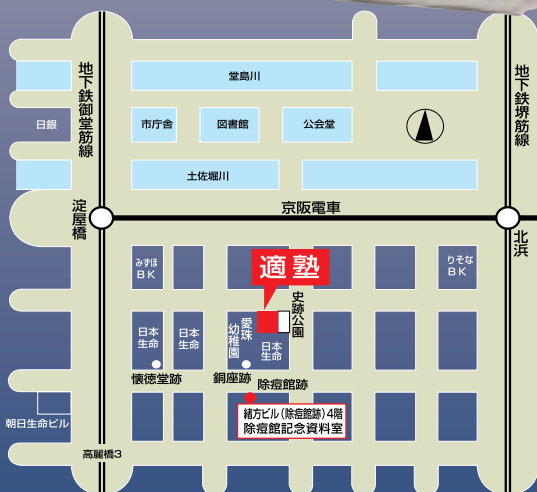
一般250円・学生130円・生徒 無料
(130円) (70円) (無料)

日・祝日開館

()内は20人以上の団体料金

交通/京阪電車・地下鉄は淀屋橋又は北浜下車、市バスは淀屋橋下車

●主催/大阪大学・適塾記念会



大阪大学創立80周年にあたって

継承する適塾の精神

2015/31(火)~6/12(日)

午前10時~午後4時(月曜日休館)



緒方洪庵の手紙



緒方洪庵

2011年、大阪大学は創立80周年を迎えました。大阪大学は緒方洪庵が開いた適塾を精神的源流としています。適塾の精神は、「科学的精神」と「医のこころ」、そして「適々のこころ」だということができるでしょう。

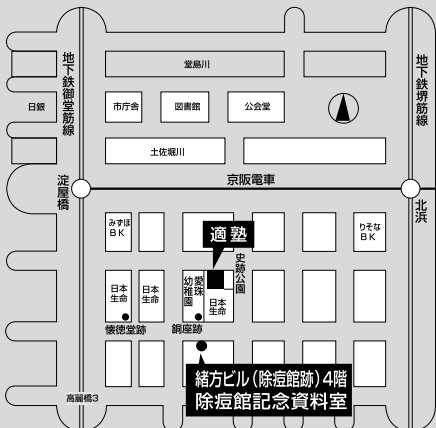
江戸時代末期、まだ日本人の多くが東洋的思考のみに親しんでいた時代に、ヨーロッパで興った科学的思考を具体的に学んだ場が適塾です。塾生たちは、オランダ語で書かれた原書を読み、塾生同士の会読を通じて、科学的精神を学び取りました。また、洪庵は、西洋医学を教えるとともに、「扶氏医戒之略」によって医師の心得12か条を示し、医のこころを伝えました。適塾の名は、洪庵の号「適々斎」に由来します。「適々」とは、適を適とする、すなわち、自分の心にかなう(適する)ところを楽しむ(適とする)こととされています。福澤諭吉は、「適々豈唯風月耳…」とする漢詩で自らの「適々」観を示しています。

扶氏医戒大略ならびに洪庵像

本展では、この記念すべき年にあたり、適塾の精神を改めて思い起こし、それが大阪大学に継承されてきた過程を追ってみることにしました。適塾の精神そのものを物語る、洪庵の著作や手紙、あるいは門人の遺墨、そして、その精神を継承して大阪大学で積み重ねられてきた研究活動および洪庵・適塾顕彰活動の一端をご紹介します。



適塾



- ◎場所 **適塾** (史跡・重要文化財)
(大阪市中央区北浜3丁目3番8号 電話06-6231-1970)
- ◎入場料 **一般250円・学生130円・生徒無料**
(130円) (70円) (無料) ()内は20人以上の団体料金
- ◎交通 京阪電車・地下鉄は淀屋橋または北浜下車、市バスは淀屋橋下車

●主催/大阪大学・適塾記念会

日・祝日開館

適塾特別展示

科学的精神

緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』全30巻



ドイツのフーフェランド(Hufeland)の内科書Enchiridion Medicum(『医学必携』)第二版(1836年版)のハーヘマン(Hageman)によるオランダ語訳の重訳。各種病気の治療法を解説したものです。全30巻で、安政4年(1857)から文久元年(1861)にかけて刊行されました。

緒方洪庵訳『人身窮理学小解』

天保2年(1831)、緒方洪庵が江戸の坪井信道のもとで学んでいたときに完成した洪庵最初の訳書です。ドイツ人ローゼ(Roose)の人体生理学の著書を、そのオランダ語本(エイプマ[Ypma]訳)から訳したものです。

医のこころ

扶氏医戒大略ならびに洪庵像

安政6年(1859)、緒方洪庵が門下生の高瀬西海の所望にこたえて描いたものです。洪庵肖像上部に記されている「扶氏医戒大略」は、『扶氏経験遺訓』の原著の巻末にある「医師の義務」を抄訳して12カ条にまとめたものです。

大坂除痘館発行種痘医免許証

嘉永2年(1849)、洪庵らは天然痘の惨禍から人々を救うため、大坂に種痘所(大坂除痘館)を開設します。これは、医師としての社会的責務を果たそうとする洪庵の「医のこころ」を実践したものとイえるでしょう。この種痘医免許証は、慶応2年(1866)に、大坂除痘館が摂津国川辺郡小浜村(現宝塚市小



浜)の医師山中良和に発行したもので、種痘苗を分苗されるにあたっての心構えを記しています。

適々のこころ

福澤諭吉七言絶句



適塾で塾頭をつとめた福澤諭吉(天保5年〔1834〕～明治34年〔1901〕)が、明治28年(1895)ごろに揮毫したものです。「適々豈唯風月耳、渺茫塵界自天真、世情休説不如意、無意人乃如意人」とあり、現実社会の中での「適々」を説いています。



継承する適塾の精神

大阪帝国大学附属医院石橋分院

昭和6年(1931)、大阪医科大学を母体のひとつとして大阪帝国大学が発足します。現在の大阪大学総合学術博物館待兼山修学館は、もと大阪帝国大学医学部附属医院石橋分院の建物(戦後は医療技術短期大学部本館)で、翌7年に建てられたものです。

適塾記念会誌『適塾』と表紙原画

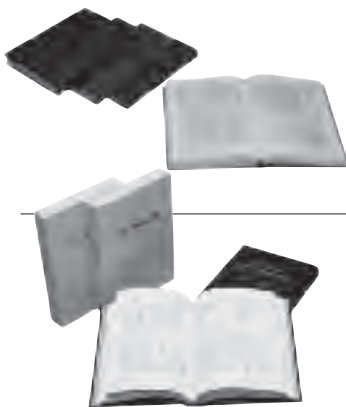
適塾記念会は、洪庵と適塾門下生の業績を顕彰し、我が国近代学術の発展を解明することを主目的に昭和27年(1952)に設立されました。会誌『適塾』を発行し、活動を続けています。第7号から17号までの表紙絵は、故伴忠康大阪大学名誉教授の作品、18号から最新の43号までの表紙絵は、大久保昌一大阪大学名誉教授の作品です。



緒方富雄・梅溪昇・適塾記念会編『緒方洪庵のてがみ』全5巻

(菜根出版、1980～1996年)

洪庵が家族や弟子などに宛てた手紙を網羅した『緒方洪庵のてがみ』全5巻の刊行は、故緒方富雄東京大学名誉教授と梅溪昇大阪大学名誉教授によって成し遂げられたもので、洪庵・適塾研究の基礎史料となっています。



適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編『緒方洪庵全集』第1・2巻

(大阪大学出版会、2010年)

洪庵生誕200年の2010年に、故芝哲夫大阪大学名誉教授により、洪庵の主著である『扶氏経験遺訓』を収録した全集の第1・2巻が大阪大学出版会から刊行されました。

適塾記念センターの発足

2011年4月1日、大阪大学に適塾記念センターが設立されました。このセンターでは、適塾の維持・管理と適塾関係者の業績の顕彰に関する活動、適塾に関する研究、大阪およびオランダの学術・文化に関連する研究が行われます。

